

下呂市 全域

令和2年度

【地域の概要】

- 下呂市は岐阜県のほぼ中央に位置し、市の中央を飛騨川が南へ、西には清流馬瀬川が流れ、総面積の91%が森林という自然豊かな山村地域。日本三大名泉の1つとされる下呂温泉には年間250万人以上の人を訪れる。
- 主な農産物は、昼夜の寒暖差を活かした夏冬トマト、飛騨牛ブランドで知られる肉用牛、人気水稻品種「いのちの粳」が栽培されるなど水稻も盛ん。
- 耕地面積は1150ha（田807ha、畑343ha）
- 人・農地プランは令和2年度にアンケート、地図作成、地域の話合いを経て全地域で実質化済み。毎年見直しも行う。

取組開始前の状況や課題

- 人農地プランで中間管理事業の活用を謳っているが、活用できていない地域がある
→古くから参入している担い手ほど、既に相対等で権利設定しており、中間管理事業の活用に至っていない
- プランの対象とならない農地をどう活用していくか
→下呂市のプランは、「担い手耕作地」と「各種交付金対象地」を対象としているためその条件を満たさない農地はどうするか
- 農家数の減少により水路の管理や畦畔の草刈り等が行き届かない
→農業用水路は生活に欠かせない水路であり、雑草の繁茂は景観等の生活環境に直結する。農家以外も含めた地域の問題である

取組内容

- 【優良農地のプランに沿った集積・集約】
 - 下呂の上原地域では「人・農地プラン」で示した集積の方針に地元が合意。農業委員会主催で説明会を開催し、中間管理機構を介し担い手6経営体に17haを集積した。この集積により地域集積協力金の交付を受けることができた。
(プラン名：旧下呂町上原)
- 【小規模農地の意欲ある耕作者による利用】
 - 農地法第3条の別段面積を現行20 a から10 a に引き下げ、さらに要件を満たせば申請により農業委員会が告示した筆に限り0.01 a (1 m^2)から農地を取得できることとした。これにより農業人口確保による遊休農地発生防止を目指す。
 - 農地の問題を農家だけで解決しようとせず、地域の問題として提起し、農業委員会主催で話し合いを実施。結果、現在「担い手耕作地」「交付金対象地」でなくとも「地域として守りたい」と選定した農地を新たにプランに追加しアンケートを実施。活用方法を検討していく。
(プラン名：旧小坂町、旧下呂町中原、旧金山町金山・下原)

今後の展開と方向性

- 【優良農地の集積・集約】
 - 今後も人・農地プランに中間管理事業活用の方針を示し、未活用の地域には、地域集積協力金などのメリットを説明のうえ、積極的に活用を呼び掛けていく。
- 【小規模農地の利用・新規参入促進】
 - 別段の面積設定では「小さい面積から農業をはじめませんか」をキャッチコピーに耕作意欲のある住民や移住者に周知していく。
 - 「地域として選定した農地」を人・農地プランに新たに組み込んだ地域には、話し合いを重ね、農家以外も構成員となれる多面的機能支払交付金等の活動組織の立ち上げを促し「農業制度を活用した地域づくり」を目指す。
 - 観光地の特性を生かし、中間管理事業活用事例、人・農地プランの組み立て方、別段の面積設定、地域を巻き込む話し合い等を資源に農業団体等の視察誘致を画策中。農業委員会が視察プランをリリースし、地域にお金を落とす全国的にも珍しい仕組みを構築したい。